

令和元年度地方教育行政功労者表彰（文部科学大臣表彰）について

このことについて、本県から下記の者が受賞しましたので、報告いたします。

「地方教育行政功労者表彰」は、地方教育行政において、その功労が特に顕著な教育委員会の委員を文部科学大臣が表彰し、その功に報いるとともに、地方教育行政の発展に資することを目的とするものです。

なお、表彰式は令和元(2019)年10月10日(木)12時20分より文部科学省講堂において行われました。

○ 被表彰者及び主な功績

氏名	略歴 (期間)	主な功績
みづこし ひさお 水越 久夫	宇都宮市教育委員会教育長 (H24.4.1～H31.3.31)	市民や学校、地域と共に10年先20年先を見据えた教育行政を心がけた。小中一貫教育・地域学校園の全市実施や学力向上、心の教育の推進に貢献した。また、大谷石文化の日本遺産認定に尽力し、芸術文化活動、ひとりスポーツの推進に向けた環境整備の充実に取り組んだ。
ふくだ ひろみつ 福田 博光	矢板市教育委員会委員 (H18.10.1～H30.9.30) 矢板市教育委員会委員長 (H20.10.1～H28.4.15)	教育委員として3期12年間、そのうち委員長を7年6ヶ月にわたり務め、市の教育振興、充実、発展のため献身的に尽力した。いち早く学校規模の適正化を図り、統廃合を実現するとともに、小規模特認校制度の整備、小中一貫教育の推進などに尽力した。
かみやま よしひさ 神山 宜久	小山市教育委員会委員 (H10.10.1～H30.9.30)	教育委員として5期20年間の長きにわたり、学校と地域が双方向に連携する教育活動の推進に尽力した。地域の声と学校の願いを教育行政の柱に据え、教室ではできない学びを、地域全体で支える環境作りに功績を残した。9年間の連続した学びを実現する義務教育学校や、ICT教育を充実させた新設小学校など、潮流を捉えた学校開設に情熱を注いだことは、後生に語られる足跡である。